



令和2年7月1日現在	
総人口	12,638人
男	6,172人
女	6,466人
世帯数	5,356世帯
島内公民館 電話	47-0264
FAX	40-1264

### 郷土愛育むきっかけに

町会連合会長 宮田 芳彦

島内で暮らすすべての人が、郷土愛を育むきっかけになればと考えています。子どもたちも、地域学習を通じて地域への関心が高まり、将来は文化財保存意識が広がっていればありがたいと思います。

### 地域を知る材料に

島内小学校長 今井 俊文

すばらしい本で、目を通すだけで地域を歩きたくなります。子どもや親が地域を知り、自分たちの家の近くにある文化財などを知ること、家族の話題になればいいと思います。

### 教員間でも活用を

松島中学校長 北野 文彦

教員間でも地域の歴史、文化遺産の関心と理解を高め、「総合的な学習の時間」で活用していきたいと思えます。図書館での貸し出しも行ないたいと思えます。

### 連続と紡がれて

前公民館長 赤廣 三郎

普段何気なく歩く道も、歴史を知ると全く違う景色が見えてきます。今は何もない場所にも、息吹を感じます。連続と紡がれてきた年月があれば



ばこそこの今であることに気が付かされます。

### 書棚に置いて

前町会連合会長 平林 大高

遺産・名跡、加えて島内ならではの自然美溢れた豊かな地域に暮らせる我々も、この

### 今後の足掛かりに

前島内史談会長

(故) 大久保 知己

すべてを網羅したわけではなく、まだまだ集録しきれない、数々の文化財が残存しています。この史資料により、未知なる分野への足掛かりになったり、参考や得るところがあれば幸甚と思う次第です。(冊子「あとがき」より抜粋)

### 皆様のお力により

編集委員長 高山 和卓

本冊子の刊行は、島内公民館の方々の絶大なるご協力があったことであります。ここに「島内郷土の歴史」冊子の刊行編集にご尽力を頂いた各位に深く感謝を申し上げます。

### ますますの充実を

館報編集委員長 高山 裕子

コツコツと連載してきたコラムから立派な書物が誕生したことは、館報の編集を進める上で大いに励みとなります。今後ますます誌面の充実を目指したいと思えます。

### 平瀬城跡を未来へつなげる

6月27日、平瀬城跡への登山者の安全や史跡保存を目的に、平瀬古城会として初めての整備を行いました。

当日は、会員約30名が、下田・山田側から草刈りや枝打ちなどで汗を流しました。

50代の男性会員は「平瀬城跡に登ったのは初めてで、頂上からの景色は格別だった。



### 高松遺跡

高松遺跡は、1987年、県営ほ場整備事業に伴う調査により発見されました。竪穴住居や土器、鉄器などが発掘され、奈良・平安時代に集落があったことがわかりました。

現在、標柱の建っている高松構造改善センターは、大宮のお祭りの練習や町内居酒屋や会議などに広く利用され、遺跡の上でも人々



の暮らしが続いています。出土品は、松本市中山の考古博物館に収蔵されています。

(常設展示のため、一般見学はできません)



20分くらいで来られるので、大勢の人に登ってほしい」と満足そうに話していました。

### 突然の臨時休校を経験して

子どもたちがいない学校で感じたことは、寂しさのみです。やはり、「学校の主役は子どもたちだ」と改めて感じました。

今、私たち教職員が何より大切にしているのは、学校が安心・安全な場所ではなくてはならないということです。児童一人ひとりに寄り添い、学習面や体力面、心の面で十分なケアをしていきたいと思っています。

(小学校教諭)

## 悪疫退散



### 花火打ち上げて笑顔

6月1日夜、全国一斉にコロナの終息を願って花火が打ち上げられ、島内小宮でも(有)華松煙火(上條博人社長)の花火が、夜空を彩りました。

毎年楽しみにされている方も多い、春の大宮神社例大祭は、コロナの影響から内容の縮小を余儀なくされました。

小学生の稚児や太鼓の方々も練習ができません。舞台曳航もありませんでした。人々が集うことがお祭りに、過去にも経験のない、とても辛い出来事でした。神社では、この疫病神事も行いました。住民も早く終息することを願っています。

(町会役員)

### マスクづくりに挑戦しました。

失敗を前提に作ったため、材料は古いカッターシャツと肌着。ミシンがなく手縫いでしたが、息子も使ってくれて「夏用マスクも欲しい」と言われてうれしくなりました。

学校は、遠隔授業を経て再開しましたが、11月の研修旅行は中止とのこと。何かをあきらめることなく、笑顔で過ごせる日が早く来て欲しいと願うばかりです。

(主婦)

### 介護現場でもコロナの影響

は大きく、施設では家族との面会が禁止になりました。

会えない悲しみから「家に帰りたい」と涙を流す入所者の方、声をかけることもできずに窓越しに顔を見て帰る家族の方の姿に、胸がいっぱいになりました。終息し、平穏な日々が戻ることを切に願っています。

(介護事業所職員)

## コロナウイルスと私たちの生活

私たちの生活に未曾有の打撃を与えた、新型コロナウイルス。緊急事態宣言が解除され、6月1日から日本各地で徐々に活動が再開されました。

そこでそれまでの間、みなさんがどのように感じ過ごしていたのかなどについて、島内の方から伺いました。

政府からの、不要不急外出自粛要請や緊急事態宣言発令により、私の職場は休業し、今も時短営業が続いています。

休業中は、他の売場への応援で出勤することもありましたが、今まで出来なかった家の大掃除ができて幸いでした。

仕事柄、ここまで長い休みはなかったため、前向きに自粛生活を送れました。

(商業施設従業員)

人気の漫画「鬼滅の刃」のキャラクターを手作りしました。

服を縫い、リカちゃん人形の髪を染めて着せました。子どもに頼まれて始めたのですが、手芸にハマってました。

(30代女性)



### 各町内公民館が悪戦苦闘しながら

各町内公民館が悪戦苦闘しながら新年度をスタートしたことと思いますが、当町会の若い役員は「慣れないな」が、行事の準備に精を出したが、自粛要請で中止となった。心が折れたが、解除されて元に戻るまで気を引き締めた」と話していました。



また、年配の役員は「久しぶりに公園へ行ったら、数人の子どものが元気に遊んでいる姿を見て元気をもらった。人の行き来が減少した地域を元気にしなければ、気持ちだけが焦っている」と話してくれました。

多くの人が連日の報道をみて、地域から感染者が無いことに安堵する一方、公民館としては予防しながらも、事業を実施したり酒を酌み交わしたりする日が来ることを願っています。

(町内公民館役員)

公民館活動は、お互いが膝を突き合わせて語り合い、共に活動し、顔が見える地域をつくる場です。今回のコロナは、まさに公民館の根幹を揺るがすもので、3月以降様々な活動が中止になり、4月から公民館や体育館が休館したため、「早く活動したい」という声も聞かれました。

6月から3密に注意しながら再開していますが、今後も事業規模縮小などを検討する必要があります。館内にはよつやく住民の声が戻り始めています。

(島内公民館職員)

### コロナ禍での避難所設置

7月8日、前日からの豪雨により、市内全地区の地域づくりセンターに避難所が開設されました。

島内では、出張所・公民館と河西部包括支援センターが連携し、要介護者や高齢者など8名を受け入れました。

コロナ対策のため、検温や消毒液の設置、避難者間隔をあける等に注意しながらの運営となりました。

